

## 「この1年を振り返って」

青森県県土整備部河川砂防課長 田中 克人

昨年4月に河川砂防課長になり、ほぼ1年が過ぎようとしています。課長代理からの異動だったため、業務内容については概ね把握していたものの、課長代理と課長の立場の違いを痛感した1年でもありました。この間、様々な出来事がありましたが、特に印象に残っている二つの事柄について述べたいと思います。堅苦しい話になりますが、ご容赦願います。

## 1. 駒込ダム本体工事の発注について

駒込ダムは青森市内を流れる堤川の右支川、駒込川の上流部に建設している多目的ダムです。「あおもりの川を愛する会」でも何度か現地見学会を開催しており、その急峻なダムサイトを記憶している方も多いと思います。

この場所は、明治35年1月、訓練に参加した210名中199名が死亡するという八甲田雪中行軍遭難事件が起きた場所でもあり、積雪のため1年間の約半分が現地に入ることのできない豪雪地帯です。この積雪と地質の複雑さも相まって、平成5年度に建設事業に着手してから25年を経て、今年度ようやく本体工事の契約を締結することとなりました。本体工事の着手から完成までの期間も通常のダムの2倍を要し、完成予定は平成43年度となっており、建設事業着手から実に38年の歳月を経て完成することとなります。私は、平成13～14年度に当時の浅虫・駒込ダム建設事務所に配属になり、駒込ダムを直接担当したこともありましたが、今回、河川砂防課長として駒込ダム本体工事の発注という一つの節目に係われたことを大変うれしく思っています。

駒込ダムの完成により、既設の下湯ダム及び横内川多目的遊水地と合わせ、堤川水系の治水安全度は目標である1/100に向上し、沿川の浸水被害は大幅に軽減されるものと期待しています。駒込ダムが完成する頃には私も70歳を過ぎます。何とか元気なうちにダムの完成をこの目で見届けたいと思っています。



## 目次:

「この1年を振り返って」	P1
平成30年度活動報告 堤川を愛する会	P3
平成30年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P3
平成30年度活動報告 親しめる川づくりサークル	P4
平成30年度活動報告 サークル母なる川	P5
総会・講演会 源流の地標柱建立活動	P6
薦川清掃活動 河川技術講演会	P7
駒込ダム着工前見学会 イワナの産卵床づくり	P8
日本海沿岸津波講演会	P9
平成31年度あおもりの川 を愛する会総会のご案内 事務局より	

## ハイライト:

- ・ 堅苦しい話 (P1)
- ・ 従前より大幅に範囲が広がった洪水浸水想定区域 (P2)
- ・ 国の繁栄の中心的役割を担ってきた川 (P5)

## 2. 洪水浸水想定区域図の公表について

「想定し得る最大規模の降雨」に対応した洪水浸水想定区域図というものをご存知でしょうか？

県ではこれまで、河川ごとに設定した河川整備の目標となる降雨（計画降雨）に対する洪水浸水想定区域図を公表してきましたが、近年、雨の降り方が激化し、全国各地で想定を上回る大雨による水害が多発しています。このようなことから平成27年に水防法が改正され、「想定し得る最大規模の降雨」に対応した洪水浸水想定区域図の公表が義務付けられました。県では、この洪水浸水想定区域図の公表を予定している35河川のうち、第1弾として八戸市の新井田川など7河川について、昨年10月に公表したところ、早速、新井田川の内容が新聞に取り上げられ、中でも東奥日報には、『豪雨想定「千年に1度」に引き上げ』、『新井田川(八戸)浸水12倍に』の見出しが躍りました。確かに従前の浸水区域に比べ、範囲が大幅に広がっており、一般の方々にはショッキングな内容だったのではないかと考えています。

特に、「千年に1度」の降雨という言葉が独り歩きし、一般の方に「あり得ない降雨」という印象を持たれているのではないかと危惧していますが、設定する降雨量については、国土交通省 水管理・国土保全局から出されている「浸水想定（洪水、内水）の作成等のための想定最大外力の設定手法」にその考え方が示されています。これによると、全国を降雨特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において観測された最大の降雨量により浸水想定区域を設定することとしており、「あり得ない降雨」ではないのです。



東奥日報（H30.10.23）

それではなぜ「千年に1度」と報道されたかについては、ここで説明するには長くなるため省略させていただきます。本県では、平成25年に岩木川や馬淵川等の河川が氾濫して以降、幸いにも大規模な水害は発生していませんが、全国で多発している、考えられないような規模の大雨が本県でもいつ降るか分かりません。面白くもない内容だとは思いましたが、今年度河川砂防課が記者発表したいくつかの事柄の中で最も反響があり、県議会でも取り上げられたこと、また、何よりも「あおもりの川を愛する会」の会員の皆様にぜひ1度、この洪水浸水想定区域図をご覧になっていただきたいとの思いから取り上げることにしました。

洪水浸水想定区域図は、県のホームページで「洪水浸水想定区域」と検索するとご覧いただけます。1月下旬に第2弾として五所川原市の十川など7河川について公表しており、残りの河川についても、今後、順次公表していきますので、最寄りの河川の区域図をぜひ一度ご覧ください。

最後になりますが、「あおもりの川を愛する会」が発足して20年以上が経ちます。私は会の発足当初からのメンバーの一人ですが、長年にわたりこの会に関わらせていただいたことに感謝するとともに、本会の益々の発展を祈念いたしまして、巻頭のことばとさせていただきます。

●堤川を愛する会 平成30年度活動報告  
サークルリーダー 東郷 克彦

平成30年度の活動といたしましては、夏、7月7日全国一斉社会実験である水辺関心創造アクション「水辺で乾杯2018」堤川版の実施を、例年通り予定しておりましたが、当日はあいにく乾杯どころではない、本格的降雨に見舞われ、活動できず。その後の河川技術講演会（於：オルテンシア）、駒込ダムサイト見学会参加他、有意義な活動を行いました。また、「川と遊び」の一環として慣例行事としております「堤川河口でのハゼ釣り」につきましては、まともな天候に恵まれず、小雨降り続き、気温も上がらず、私個人的には早々に退散する始末でした。

本年度は、あいにく野外活動では天候に恵まれませんでした。ますますコミュニケーションの場・機会を設け、メンバー並び関係者と楽しく活動を進めていく所存ですので、よろしくお願いたします。 以上

●ジョイリバーおいらせ 平成30年度活動報告  
サークルリーダー 中野渡 悟

例年ですと、ジョイリバー奥入瀬は<sup>とも</sup>おいらせ知の会と共催で植樹と川下りを実施しておりましたが、今回は苔で有名になりつつある奥入瀬溪流の散策を実施しようと考え、ボランティアガイドをお願いして実施致しました。それゆえ今回は川下りをとりやめとなりました。

6月30日は毎年実施している植樹を23名の参加のもと実施しました。

また、7月28日は奥入瀬溪流の散策を21名の参加で実施しました。地元で良く知っているつもりでしたが、ガイドの方の説明を聴き、あらためて奥入瀬溪流の奥深さを実感できました。



7月28日奥入瀬溪流散策 21名

## ● 親しめる川づくりサークル

平成30年度活動報告  
サークルリーダー 南 直之進

平成30年7月21日(土)に岩木川水辺プラザにおいて、昨年同様中弘南黒建設協会と共催で「川でふれあい建設フェア2018」を開催しました。

自然に触れ合う機会が少ない子供たちが、保護者と共に川と触れあえる機会を設けるための魚のつかみ取り競争と、建設業を身近に感じてもらうために、ものづくり体験コーナー、建設機械の展示と・試乗体験を行いました。また、今回もゲームコーナーを設けスコップDEビンゴ・土のうで3キロぴったしカンカンなどを行いました。子供たちが楽しみながら建設業を体験できたと思います。

当日は多くの家族連れが訪れ、用意した500匹のニジマスが悪戦苦闘しながら、歓声を上げて楽しそうに追いかけたり、高所作業車やタイヤショベルなどの建設機械も人気があり、特に高所作業車は長蛇の列となり、ものづくり体験コーナーは、木工体験・畳や和紙でのコースターづくり・スプレー缶でアート作成、コテを使って壁塗り等親子で真剣に取り組んでました。また魚の串焼き・巨大アップルパイの振る舞いなども大好評でした。次年も是非開催したいと思います。



● サークル 「母なる川」 平成30年度活動報告  
サークルリーダー 和島 隆志

サークル「母なる川」では2018の活動として、シンガポールの「シンガポール川」を視察して来ました。

シンガポール川が流れるシンガポールはマレー半島の南端に位置する島で、北緯1度とほぼ赤道直下。琵琶湖ほどの面積に約560万人もの人々が住んでいる人口密度の高い国です。狭い国土にはこれといった資源も無く、熱帯気候で降雨量はあっても、元々ため池、ダム等の水を貯水するシステムもなかったせいで、隣国マレーシアからライフラインでもある水を輸入しているといった事情もあるそうです。



「シンガポール川」は長さ約3km、南東部の市街地を流れシンガポール海峡に注ぐ河川です。河口部沿岸にはシンボルになっているマーライオンやマリーナ・ベイ・サンズがあり、観光やビジネスの拠点となっていることから、長さは短くてもシンガポールを代表する河川となっています。



海運が盛んだった19世紀頃には貿易の中心地として栄え、沿岸には有名な船着き場が並んだシンガポール川でしたが、現在では水不足解消の目的もあって、河口部にはダムが建設され、海水が流れ込まないようにしているため、川全体が真水の貯水池になっているそうです。

これといった資源も無く、狭い国土に国を興し、繁栄させてきた先人の困難が想像されますが、その中心的な役割を担っていたのが「シンガポール川」ではないでしょうか。



●平成30年度 総会・講演会  
あおもりの川を愛する会 事務局

平成30年5月19日に平成30年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。  
当日は日本河川協会大西亘参与様よりご挨拶を頂きました。総会終了後、八戸工業大学大学院教授佐々木幹夫様が講師となり演題「選奨土木遺産・十三湖水戸口突堤」講演会を行いました。  
(参加者44名)



大西亘参与

●平成30年度 源流の地標柱建立活動  
あおもりの川を愛する会 事務局

大童子川源流探訪会

平成30年7月19日に標柱の建立を西津軽郡深浦町岩坂に流れる大童子川の源流の地に標柱を建立しました。毎年1ヶ所、源流の地に標柱を建立しており、今年で13本目となりました。  
(参加者13名)



＜大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、天田内川、浅水川、鳴沢川、十川、松館川、熊ノ沢川、浅瀬石川＞



●平成30年度 河川技術講演会  
あおもりの川を愛する会 事務局

平成30年8月4日五所川原市「オルテンシア」ふるさと交流圏民センターに於いて「河川技術講演会」を開催しました。歓迎のご挨拶を五所川原市佐々木孝昌市長より頂きました。

参議院議員 足立敏之氏が演題「激甚化する水害に備えて」国土交通省 東北地方整備局 河川部長 高村 裕平氏が演題「東北の河川を取り巻く最近の課題」で行いました。（参加者224名）



高村裕平河川部長



東北地方整備局 高田昌行局長



佐々木孝昌市長



足立敏之議員



三村知事

●平成30年度 蔦川（つたがわ）清掃活動  
あおもりの川を愛する会 事務局

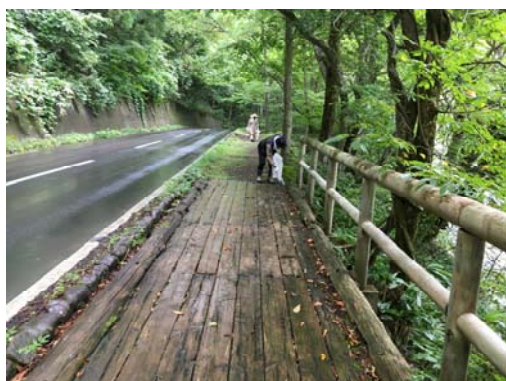
<平成30年9月1日（土） 於：蔦川>

第16回目となります蔦川（旧十和田湖町）の清掃活動を行いました。作業前に分別袋を渡し約1.5kmごみ拾いを行いました。

当会としまして年1回の清掃・美化活動ですが、今後も継続し蔦川溪流に来て頂いた人に綺麗な川を見て頂きたいと考えております。（参加者65名）



上北地域県民局地域整備部（山本部長）



● 駒込ダム着工前見学会

あおもりの川を愛する会 事務局

平成30年10月5日駒込ダム建設所のご協力を頂き、「駒込ダム着工前見学会」を行ないました。調査や工事用道路整備などの工事も進み、工事は発注に向けて最終的な準備を進めているところでした。

(参加者15名)



駒込ダム建設所石岡所長  
(工事概要説明)



● イワナ産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

平成30年10月23日 蔦川の小溪流に今年で12回目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。11月9日に確認したところ産卵床の場所にイワナの卵が確認されませんでした。

(参加者14名)





●津波講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成30年10月27日（土） 於:むつ市>



平成30年10月27日むつグリーンホテルに於いて「津波と地域の防災力向上について」の講演会をむつ市の協力のもと青森県と共催で開催しました。

(参加者 145名)



むつ市宮下宗一郎市長挨拶



●令和元年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局



令和元年度の総会を5月18日（土）に予定しております。総会後には、演奏会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は22年目を迎えることになりました。会員数は現在205名となっています。今年度も、会員の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからは会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思えます。ご協力よろしくお願ひいたします。

【事務局】 〒030-0111  
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL:017-729-0922

FAX:017-739-3561

E-mail:kon-h@nishidagumi.co.jp